

「転職」成功の条件

企業経営漫談士 岡野実空

我が国におけるヘッドハンターの草分け、東京エグゼクティブサーチ協会長の江島優氏。氏に初めてお会いしたのは平成になって間もない頃。ようやく天職に就いた直後で、某社へのありがたいお誘いはお断りしたものの、その後も何度かお会いし、情報交換とともに、氏の波乱万丈の人生から得たさまざまな教訓をご教授いただきました。その中から今回は、ヘッドハンターが対象者の「適性」を判断するポイント、すなわち「転職成功の条件」(氏の公表する①～⑩)をお伝えします。

条件1: 「職業人」としての有能さ

組織トップのハンティングである以上、クライアントの業界の「①専門能力」に加え、「②マネジメント能力」が必須であることはいうまでもありません。またその多くが、バブルの絶頂だった我が国に進出を目指す外資系企業であったことから、英語を柱とした「③語学力」も同様でした。

この中で最も判断が難しいのは、「マネジメント能力」。これは学習可能な領域に限られ、「センス」という暗黙知の部分に左右されるため、実際その立場についてみないとよくわからないからです。

最近の動きで注目されるのは、「プロ経営者」なる人種の存在。彼らは主に「再建」に手腕を発揮しますが、それが軌道に乗ると多くが行き詰ってしまいます。それはその「専門能力」が、「再建」限定のマネジメントであることを物語っています。

条件2: 「社会人」としてのバランス感覚

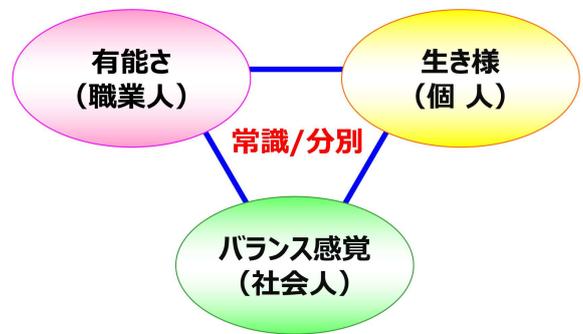
外資系のクライアントらしさが感じられるのは、「社会人」としての諸条件。経済一辺倒の我が国とは違い、彼らにとって「④異文化交流」は当たり前であり、そのため各種の「⑧勉強会」に参加し、新たな知識や異なった考え方を学ぶ必要があります。また一市民として「⑨地域社会」に身を置き、そこから学ぶことができないと、徐々に社会と隔絶し、いずれ事業そのものも行き詰ってしまいます。

現代とは「マネジメント」の発明に加え、さまざまな「技術」の発達によって「生産性」が飛躍的に向上し、多くのモノが過剰となった時代。そのため主導権は「生産者」から「生活者」に移り、「社会」への深い洞察抜きでは、いまやどんな事業も成り立たなくなっています。平成の日本企業の停滞とは、それをいまだに理解できていない旧世代のマネジメントによる人災でした。

条件3: 「個人」としての生き様

江島氏のチェックポイントの中で、私が特に注目したのは、「個人」としての生き様の部分。そのうち「⑤遊び」「⑥趣味」は仕事を忘れ、

KM 2-25 「転職」成功の条件



気分転換になるだけでなく、またそこから大いに学びを得られます。また心身共にリフレッシュすることで、「健康」や「⑦体力」維持につながります。

その後もなく「ワークライフ・バランス」が叫ばれるようになりましたが、我が国らしく「仕事」と「家庭」のバランスばかりが注目されることになってしまいました。いまや「個人」の生き方もさまざま。「社会」とどのように関わり、どのような「人生」を送りたいかが問われています。

江島氏のチェックポイントの最後は、①～⑨の総合としての「⑩ライフプラン」の存在。それは近年、大いに話題を呼んだリンダ・グラットン女史の『ライフ・シフト』そのものです。

日本の草分けが江島氏なら、2008年に「世界で最も影響力のあるヘッドハンター・トップ50人」に我が国から唯一選ばれたのは、橋・フクシマ・咲江女史。その数年前、JMAのシンポジウムでの彼女の質疑応答は、決して忘れることができません。

質問(聴衆):「経営者に必要な資質とは?」

返答(女史):「常識があることです!」(微笑)

解説(実空):「常識」とは、社会人が共通して持つべき「知識」や「分別」(条件2)

2019年5月20日 実空